

「開発行為及び自費工事等」における  
綾瀬市道路施設整備指針

令和2年4月1日

《目次》

特記事項	P. 1
1 路盤構成表<道路断面標準工法図>	P. 2
2 路盤等施工基準<道路断面標準工法図>	P. 4
3 歩道舗装及び舗装構成<歩道切下標準工法図・その他>	P. 8
4 構造図	P. 18
<道路排水施設標準工法図>	
鉄筋コンクリートU型トラフ綾瀬型	(P. 19)
落蓋式U型側溝	(P. 19)
綾瀬市型側溝用コンクリート蓋	(P. 20)
綾瀬市型側溝用グレーチング蓋	(P. 21)
落蓋式側溝用グレーチング蓋	(P. 22)
ボルト固定式横断用側溝	(P. 24)
LU型側溝	(P. 25)
LU型側溝用グレーチング蓋	(P. 26)
自由勾配側溝	(P. 27)
自由勾配側溝用グレーチング蓋	(P. 30)
自由勾配側溝用柵	(P. 31)
自由勾配側溝柵用グレーチング蓋	(P. 32)
現場打ちU型側溝	(P. 33)
横断暗渠	(P. 36)
台付管	(P. 37)
綾瀬市型集水柵	(P. 38)
綾瀬市型集水柵<浸透式>	(P. 39)
藤沢市B型集水柵<浸透式>	(P. 40)
綾瀬市型集水柵用グレーチング蓋	(P. 41)
建設省型集水柵	(P. 43)
建設省型現場打ち用集水柵	(P. 44)
現場打ち暗渠パイプカルバート	(P. 45)
鉄筋コンクリートL型	(P. 46)
現場打ち組み合わせL型側溝	(P. 50)
<道路付属施設標準工法図>	
道路反射鏡	(P. 51)
地先境界ブロック	(P. 54)
車止めポール	(P. 54)
横断防止柵	(P. 55)
植樹柵	(P. 56)
<地下埋設物配置標準図>	
地下埋設物配置標準図	(P. 57)
5 神奈川県「みんなのバリアフリーまちづくり整備ガイドブック」抜粋	(P. 59)

## 特記事項

### 1 路盤構成

工事個所の路盤構成の確認をお願いします。基本的には既設の構成に復旧となりますが、開発行為等の新たな道路整備の際は、市職員と調整を行ってください。

### 2 路盤等施工基準

後述「路盤等施工基準〈道路断面標準工法図〉」にて確認をお願いします。施工確認のため工事前・中・後の写真管理を行ってください。

開発行為等において、区域内道路を綾瀬市に帰属する場合、市職員立会いの下に検査を実施します。

### 3 歩道舗装及び舗装構成

歩道については、透水性舗装を基本とします。ただし、現況が透水性舗装でない場合、市職員と調整を行ってください。

車止めポールや植樹柵等の道路付属施設がある場合には、現況復旧を原則としています。

### 4 構造図

綾瀬市で使用している標準的な構造図を記載しています。グレーチングを設置する場合は、普通目・滑り防止機能付きを基本とします。ただし、歩行者動線に設置する場合は、細目を使用することがあります。

集水柵については浸透式の使用を標準としていますが、地下水位の高い土地については市職員と調整をお願いします。

※本指針を基本としますが、現場状況により施工内容が異なるため、市職員と十分な調整をお願いします。

# 1 路盤構成表

(道路断面標準工法図)

# 舗装構成表

1号歩道舗装	As密粒	3 c m
	路盤 RC-40	10 c m
	$\Sigma t = 13 \text{ c m}$	

2号歩道舗装	As密粒	5 c m
	路盤 RC-40	20 c m
	$\Sigma t = 25 \text{ c m}$	

3号砂利道	路盤 C-40	15 c m
	$\Sigma t = 15 \text{ c m}$	

4号歩道舗装	(標準)	
	As開粒	4 c m
	路盤 RC-40	10 c m
	フィルター層 RC-10	10 c m
	$\Sigma t = 24 \text{ c m}$	

	(切下げ部)	
	As開粒	5 c m
	路盤 RC-40	20 c m
	フィルター層 RC-10	10 c m
	$\Sigma t = 35 \text{ c m}$	

5号舗装	As密粒	4 c m
	路盤 RM-40	18 c m
	$\Sigma t = 22 \text{ c m}$	

6号舗装	(旧断面)	
	As密粒	4 c m
	上層路盤 RM-40	10 c m
	下層路盤 RC-40	19 c m
	$\Sigma t = 33 \text{ c m}$	

※既存道路の復旧等に適用

	(改正断面)	
	As密粒	5 c m
	上層路盤 RM-40	10 c m
	下層路盤 RC-40	15 c m
	$\Sigma t = 30 \text{ c m}$	

※開発行為等による新たな道路整備に  
行き止まりの自主管理道路に適用

7号舗装	As密粒	5 c m
	上層路盤 RM-40	15 c m
	下層路盤 RC-40	20 c m
	$\Sigma t = 40 \text{ c m}$	

※開発行為等による新たな道路整備に適用

8号舗装	As密粒	5 c m
	上層路盤 RM-40	20 c m
	下層路盤 RC-40	30 c m
	$\Sigma t = 55 \text{ c m}$	

9号舗装	As密粒	5 c m
	As安定処理	10 c m
	上層路盤 RM-40	20 c m
	下層路盤 RC-40	30 c m
	$\Sigma t = 65 \text{ c m}$	

10号舗装	As密粒	5 c m
	As粗粒	5 c m
	As安定処理	10 c m
	上層路盤 RM-40	20 c m
	下層路盤 RC-40	30 c m
	$\Sigma t = 70 \text{ c m}$	

### ※注意事項

道路横断勾配は、道路中心線から両側道路端方向  
へ2%とする

## 2 路盤等施工基準

(道路断面標準工法図)

《路盤等施工基準》

種別			区分（1層仕上り厚）	締固め方法	
路盤	車道	不陸整正	路盤	マカダムローラ タイヤローラ	
		下層路盤工 （RC-40）	20cmまで	マカダムローラ タイヤローラ	
		上層路盤工 （RM-40）	15cmまで	マカダムローラ タイヤローラ	
		本線路盤工	狭い （10cmまで）	振動ローラ タンパ	
		上層路盤工 （As安定処理）	10cmまで	タイヤローラ、 マカダムローラ 組み合わせ 振動ローラ タンパ	
	歩道	路盤工	10cmまで	振動ローラ タンパ	
			広い （20cmまで）	マカダムローラ	
	表層	車道	As表層工 （As密粒度）	3～7cmまで	タイヤローラ、 マカダムローラ 組み合わせ 振動ローラ タンパ
			As基層工 （As粗粒度）		振動ローラ タンパ
		歩道	舗装工 （As開粒度）	3～7cmまで	振動ローラ タンパ
振動ローラ タンパ					

## 路盤強度（締固め度）試験について

開発行為等において、区域内道路を綾瀬市に帰属する場合、必要に応じ以下の内容に係る試験を実施して頂き、路盤及び舗装の施工品質を確認します。

なお、この試験の目的は、帰属後、当該道路が公共の用に供することとなり、市が維持管理を行うため、市が行う公共工事と同等な品質を確保するものです。

### ★ 路 盤

試験目的：現場密度試験

《砂置換法（参考図書：舗装試験法便覧）》

試験箇所：帰属 1 路線あたり最低 3 箇所

（舗装施工面積が 1, 000 m<sup>2</sup>を超える路線については 1, 000 m<sup>2</sup>ごとに 1 箇所とする。）

規格値：最大乾燥密度の 93%以上

X<sub>10</sub> 95%以上

X<sub>6</sub> 96%以上

X<sub>3</sub> 97%以上

### ★ 舗 装

※舗装コアを 1 箇所採取し、市に提出。

※コアの状況を確認し、骨材間の空隙が多い場合には現場密度試験を実施。

試験項目：現場密度試験（プラント管理にて）

《コア密度試験（参考図書：舗装試験法便覧）》

試験箇所：帰属 1 路線あたり最低 3 箇所

（舗装施工面積が 1, 000 m<sup>2</sup>を超える路線については 1, 000 m<sup>2</sup>ごとに 1 箇所とする。）

規格値：基準密度の 94%以上

X<sub>10</sub> 96%以上

X<sub>6</sub> 96%以上

X<sub>3</sub> 96.5%以上

## CBR 試験の実施について

開発行為等において、区域内道路を綾瀬市に帰属する場合、必要に応じ、現場 CBR 試験を実施して頂き、路床の状況を確認し、設計 CBR の検証を行います。

なお、このような試験を必要とする現場条件は、埋め戻しにより道路を構築する場合や水田等を埋め戻して道路を構築する場合など、軟弱な路床に道路を整備する場合があります。

試験の実施に関わる判断につきましては、窓口相談や事前協議時等において、市が計画内容や現地を確認し決定します。

## 道路付近に設置する擁壁について

開発等において道路を帰属し道路境界線沿いに擁壁を設置する場合には、次の事項に留意してください。

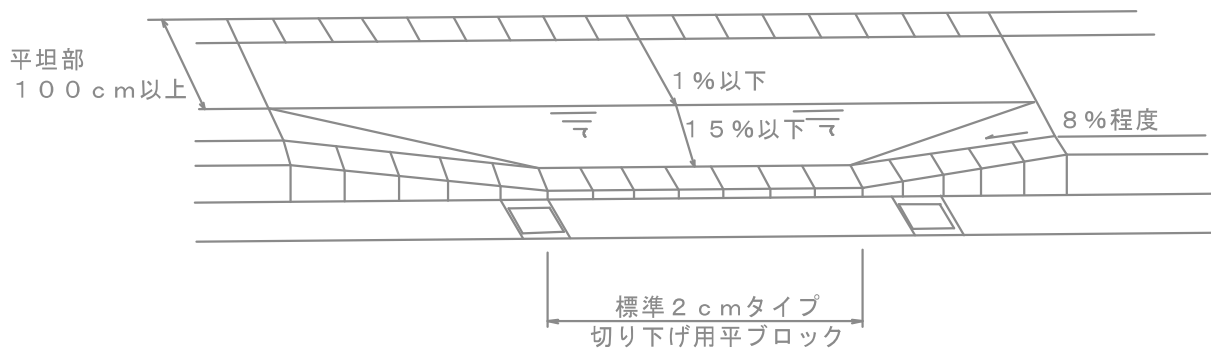
- ・ 民地が道路面より低く、道路を保護するような構造を有するには、道路構造物として考えます。
- ・ 道路面より民地が高く、民地の宅地面を保護するような場合には、民地の構造物として考えます。
- ・ 開発区域内だけではなく、開発区域と隣接する土地に対しても十分検討する必要がある場合もあります。
- ・ 道路区域の考え方や擁壁の基礎部分の位置などの協議が必要です。
- ・ 以上のような状況が開発行為によって発生する場合は、事前相談時（設計時）に、市職員と十分協議してください。

### 3 歩道舗装及び舗装構成

(歩道切下標準工法図・その他)

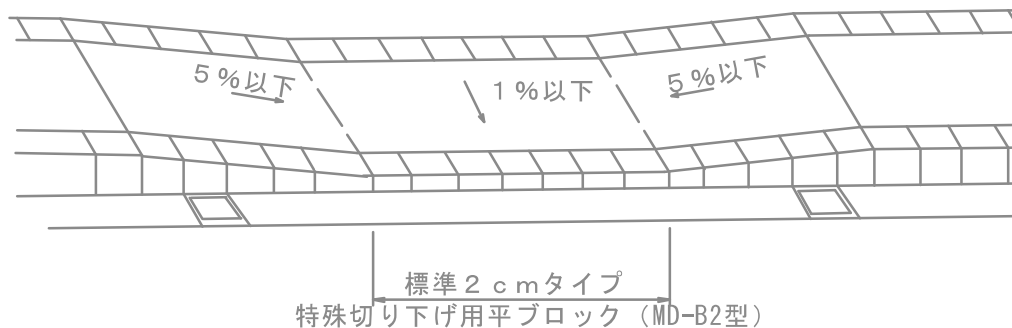
## ☆歩道舗装及び舗装構成

### 1) 歩道内ですりつける方法



※車両乗り入れ部及び歩行者用の切り下げは2cmを基本とする。ただし、特別な理由によりやむを得ない場合においては5cmとする。

### 2) 全面切り下げをする方法



## 車両出入口の設置構造基準

### 1 基本的な考え方

- (1) 歩道には、原則として1.0 m以上の平坦部分（横断勾配1%以下とする部分 以下「平坦部」という）を設けるものとする。
- (2) 歩道幅員が狭い場合には、車両出入り部を前面に切下げて縦断勾配によりすり付けるものとする。この場合の縦断方向のすり付け勾配は、5%以下とする。ただし、地形の状況その他特別の理由によりやむを得ない場合においては、8%以下とすることができる。
- (3) 歩道面と車道面との段差は2 cmを標準とする。なお、自転車歩行者道にあつては、自転車乗り入れに適した段差とする。
- (4) 上記(1)～(3)によりがたい場合は、歩道の安全性が確保できるような構造の検討を行うこと。

### 2 フロー

#### (1) マウントアップ形式の場合

原則として、歩道内において、すり付けを行う構造とする。

この場合、1.0 m以上の平坦部分を設けるものとし、縁石ブロックには切り下げ用平ブロックを用いて横断方向のすり付け勾配が1.5%以下になるようにする。

(別図1参照)

なお、歩道の高さや幅員によっては、平坦部分の確保のために縁石ブロックに特殊切り下げブロックを使用することも考えられるが、この場合、横断方向のすり付け勾配は1.0%以下となるようにする。

また、十分な歩道幅員がなく、上記の構造で歩道内のすり付けを行えない場合には、原則として民地側を下げた全面切り下げとし、縁石ブロックには切り下げ用平ブロックを用いて縦断方向のすり付け勾配を5%以下（やむを得ない場合は8%以下）とする。

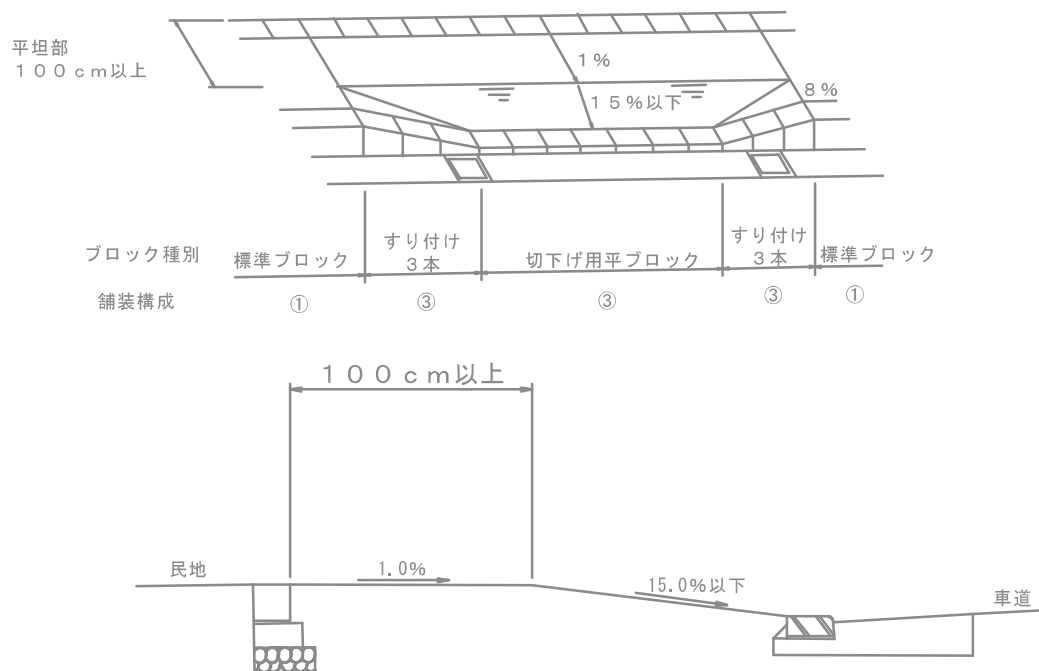
(別図2参照)

#### (2) セミフラット形式の場合

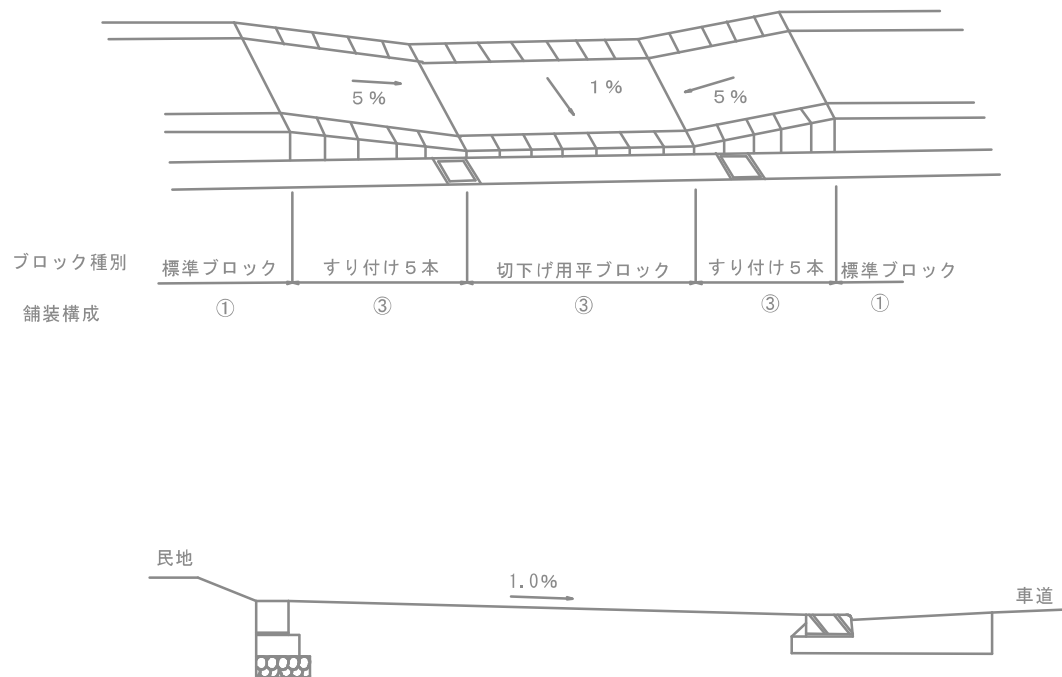
縁石ブロックに切り下げ用平ブロックを用いて一様な横断勾配とする。

(別図3参照)

別図1 マウントアップ歩道 切り下げ用平ブロック使用の場合（原則）

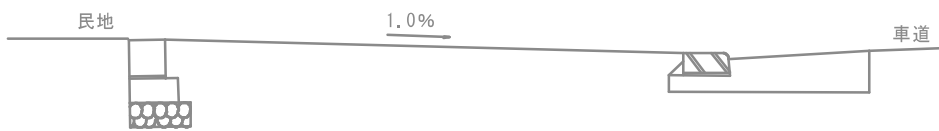
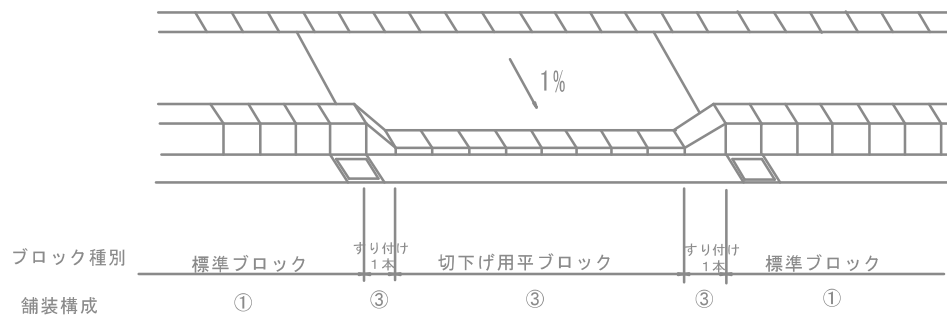


別図2 マウントアップ歩道 十分な幅員がなく、全面切り下げ（縦断勾配5%）の場合



※舗装構成は15ページの表4-4-3、4-4-4に準ずる。

別図3 セミフラット形式の歩道の場合



※舗装構成は15ページの表4-4-3、4-4-4に準ずる。

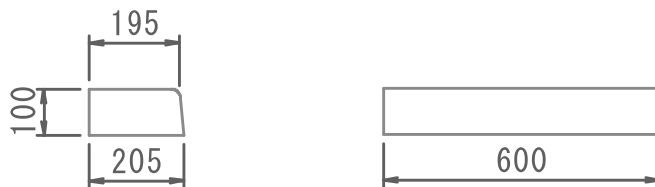
参考

切下げ用平ブロック

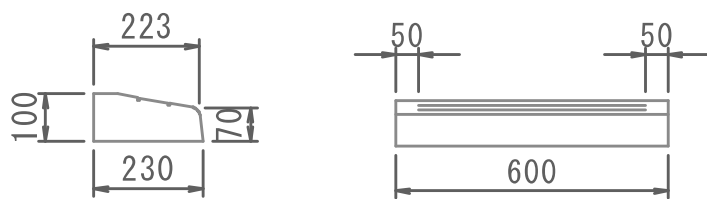
(段差2センチメートル)



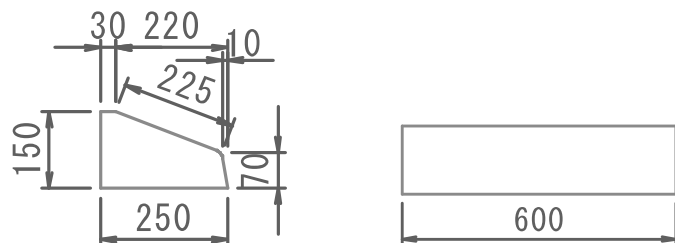
(段差5センチメートル)



切下げ用平ブロック (両面用)



特殊切下げブロック





①透水性舗装における舗装構成

表 4-4-3

		標準の場合 ① ②	切下げの場合		適要
			普通車の場合③	大型車の場合③	
アスファルト 舗装	表層	t=4cm (開粒度)	t=5cm (開粒度)	特殊舗装の舗装 構成を参照	1. 透水性舗装 用アスファルト 混合物を原則とする。 2. 路盤面のプライムコート は施工しない。
	路盤	t=10cm (C-40) [RC-40]	t=20cm (C-40) [RC-40]		
	フィルター層	t=10cm (砂層)	t=10cm (砂層)		

②特殊部における舗装構成

表 4-4-4

		標準の場合 ① ②	切下げの場合		適要
			普通車の場合③	大型車の場合③	
アスファルト 舗装	表層	t=3cm (密粒度) [再生密粒度]	t=5cm (密粒度) [再生密粒度]	t=5cm (密粒度) [再生密粒度]	1. アスファルト舗装 を原則とする。
	基層	—	—	t=5cm (粗粒度) [再生粗粒度]	
	路盤	t=10cm (C-40) [RC-40]	t=20cm (C-40) [RC-40]	t=30cm (C-40) [RC-40]	
コンクリート舗装	コンクリート舗装版	t=7cm ( $\sigma_{ck}=18N/mm^2$ )	t=10cm ( $\sigma_{ck}=18N/mm^2$ )	t=15cm ( $\sigma_{ck}=18N/mm^2$ )	
	路盤	t=10cm (C-40) [RC-40]	t=20cm (C-40) [RC-40]	t=30cm (C-40) [RC-40]	

注1) 切下げが短区間で連続する場合の取扱いは、4-17 図4-4-1 ①型式の標準ブロック区間が10m以下となる場合、舗装面を切り下げ部の高さと同じとするフラット型歩道とする。

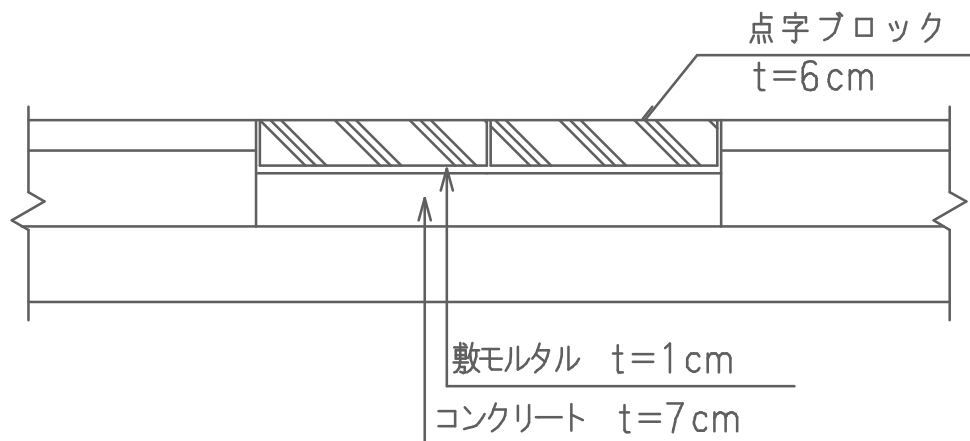
注2) アスファルト舗装における表層の材料は、維持管理上必要と認められる場合、細粒度(再生細粒度)とすることができる。

☆視覚障害者誘導用ブロック（周辺がアスファルト舗装の場合）

モルタル  $t = 1 \text{ cm}$

コンクリート C18N-8

設置にあたっては第8章参考資料『福祉のまちづくり整備ガイドブック』を参照されたい。



☆インターロッキングブロック舗装

インターロッキングブロックの舗装構成は下図の通りとする。

	標準の場合①②	切下げの場合	
		普通車の場合③	大型車の場合④
ILB 舗装	$t = 3 \text{ cm}$ (砂) $t = 10 \text{ cm}$ (RC-40)	$t = 3 \text{ cm}$ (砂) $t = 15 \text{ cm}$ (RC-40)	$t = 3 \text{ cm}$ (モルタル) $t = 10 \text{ cm}$ (再生As安定処理) $t = 15 \text{ cm}$ (RC-40)

☆改質アスファルトの使用について

改質アスファルトの使用については以下を標準とするが、新設道路については主務課と協議するものとする。

(1) すべり止め対策として使用する場合

使用する合材は、密粒度ギャップ（改質アスファルトⅠ型）を原則とする。ただし、耐流動対策をあわせて考慮する場合、(2) を参照とすること。

なお、急勾配道路ですべり止め対策を行う縦断勾配はおおむね8%以上とする。（場合によっては6%以上）

(2) 耐流動対策として使用する場合

改質アスファルトⅠ、Ⅱ型の適用基準は下表を標準とする。

(イ) ただし、現況の流動状況によっては、下表によらず主務課協議とする。

表4-12-1

大型交通量区分	対象層	改質材種類	適用
N5 (旧B交通)	表層	Ⅰ型	単路部で大型車交通量500台/日・一方向以上又は、交差点流入部
N6 (旧C交通)	表層	Ⅱ型	現況の流動状況により、表層も可
N7 (旧D交通)	表層 中間層	Ⅱ型	交差点流入部については、基層も可

注1) 改質アスファルトⅠ型の針入度は、50以上とする。

注2) 表層、中間層だけに改質材を使用した場合、基層のアスファルトの針入度は40～60を標準とする。

(ロ) その他

セミブローンアスファルト、半たわみ性舗装等の使用については主務課と協議すること。

## 4 構造図

《道路排水施設標準工法図》

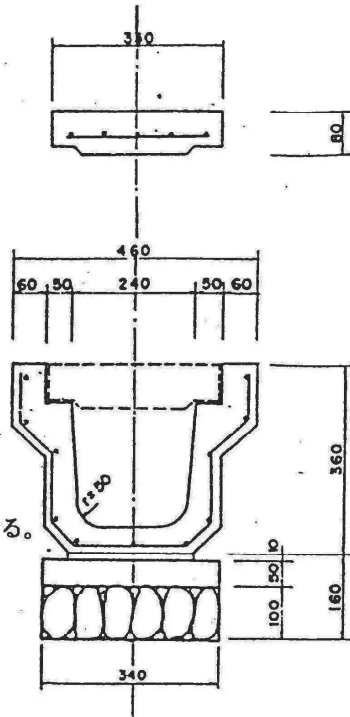
《道路付属施設標準工法図》

《地下埋設物配置標準図》

鉄筋コンクリートU型トラフ標準型

— 240 —

(綾瀬型)

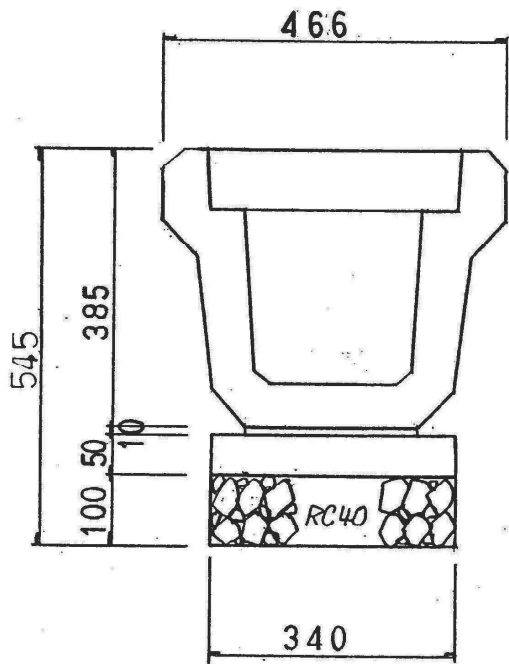


※既存の布設替え等の場合は使用可能とする。

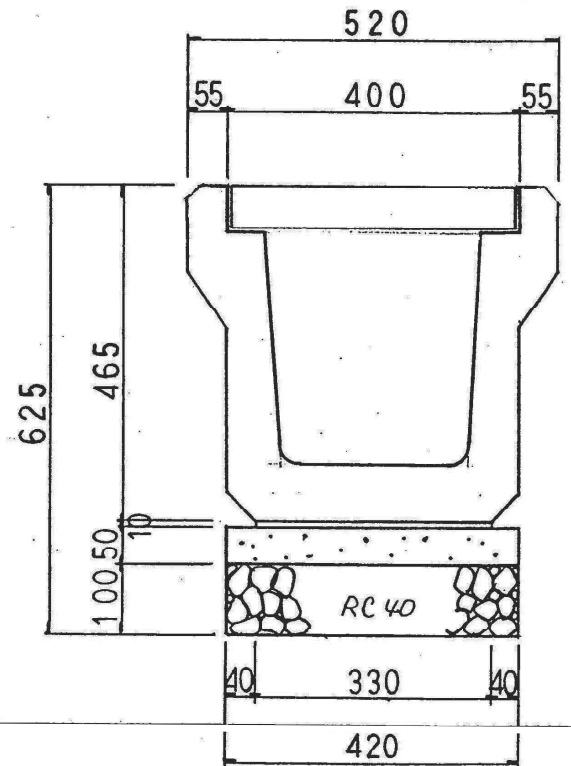
ただし、新規に設置する場合は使用不可とする。

落ふた式U型側溝

— 240 —



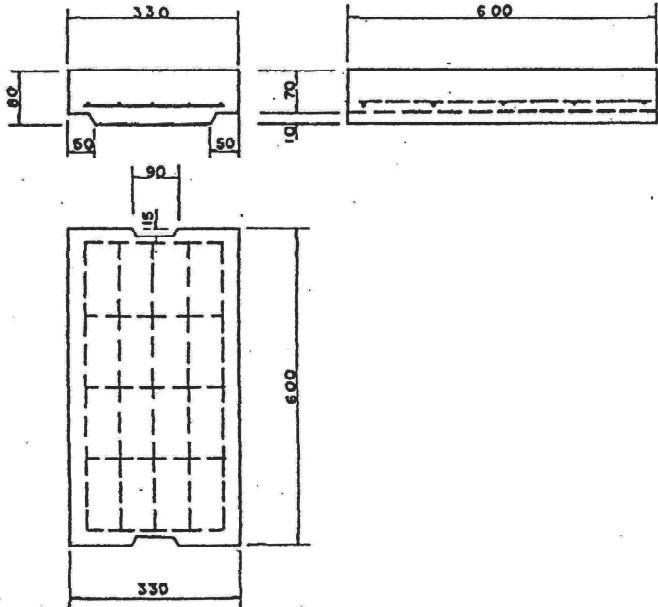
— 300 —



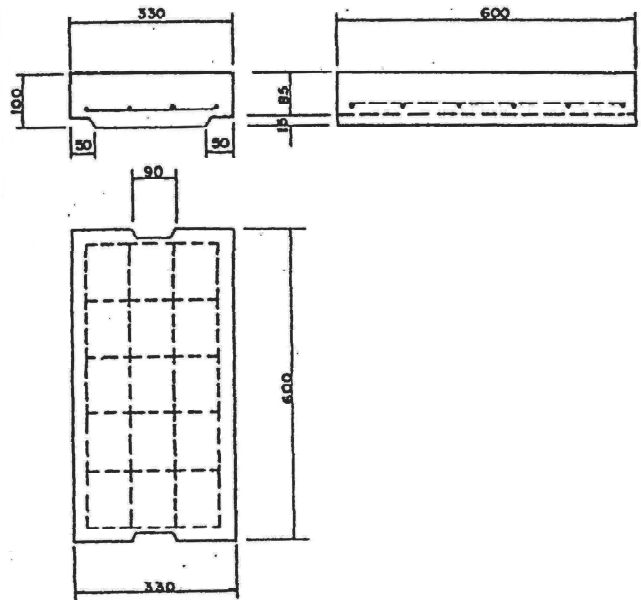
綾瀬市型甲ふた (240用)

※既存の布設替え等の場合は使用可能とする。

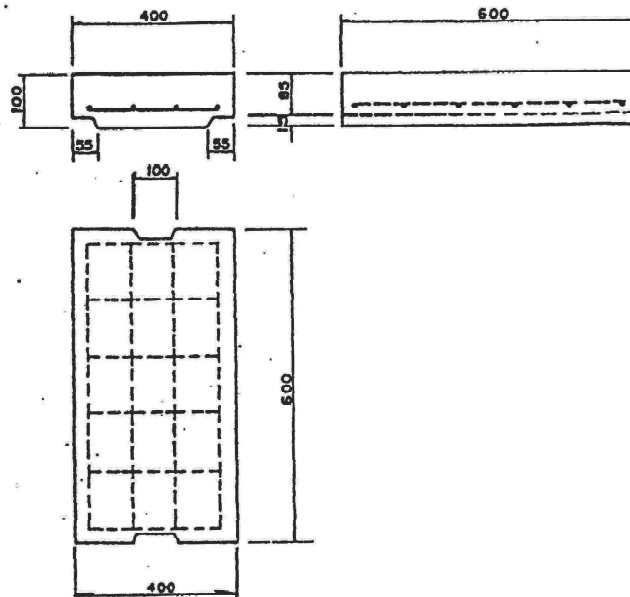
ただし、新規に設置する場合は使用不可とする。

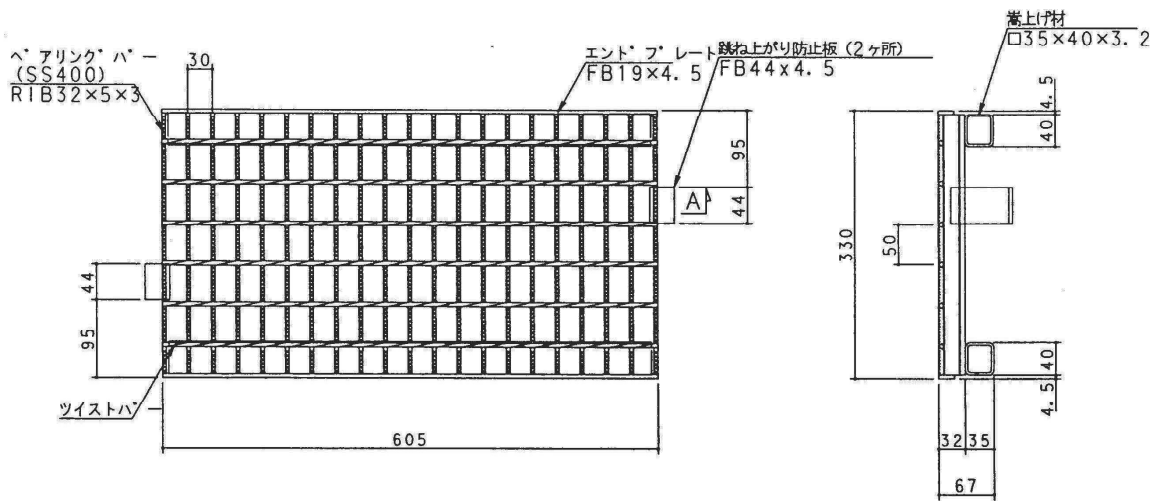


甲ふた (240用)



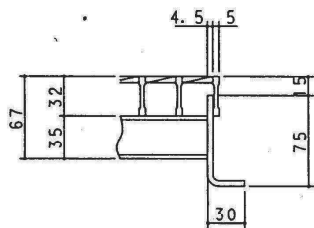
甲ふた (300用)





**記事**

- |         |                                |
|---------|--------------------------------|
| 1. 型 式  | R5MK32S067型                    |
| 2. 表面処理 | グレーチング：亜鉛メッキ                   |
| 3. 設計条件 | 荷重：T-14, 衝撃係数I=0<br>ヘアリングバーに平行 |

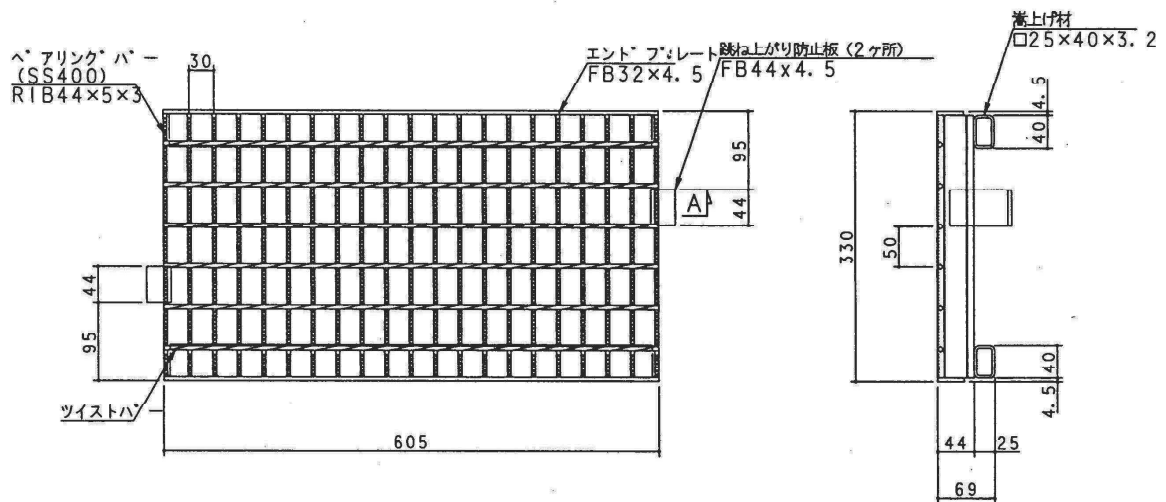


A~矢視



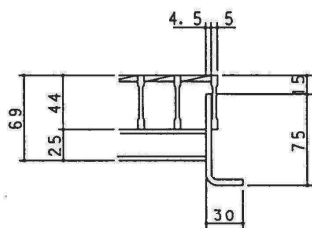
ヘアリングパート面  
(ガラザラ)

綾瀬市型側溝 240用 T-14  
グレーチング詳細図  
(ガラザラ50・嵩上げ)



**記事**

- |         |                                |
|---------|--------------------------------|
| 1. 型 式  | R5MK44S069型                    |
| 2. 表面処理 | グレーチング：亜鉛メッキ                   |
| 3. 設計条件 | 荷重：T-25, 衝撃係数I=0<br>ヘアリングバーに平行 |

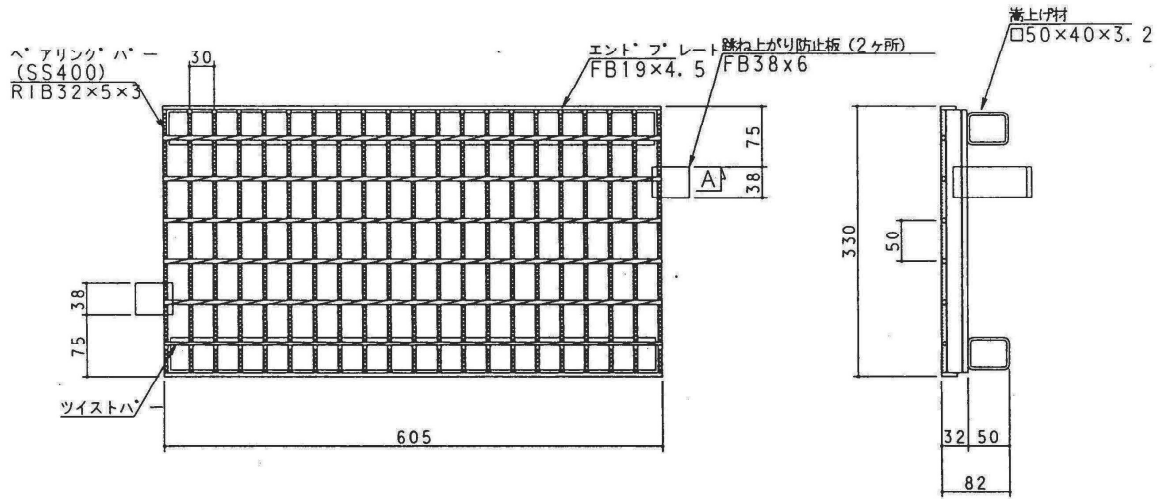


A~矢視



ヘアリングバー上面  
(ガラザラ)

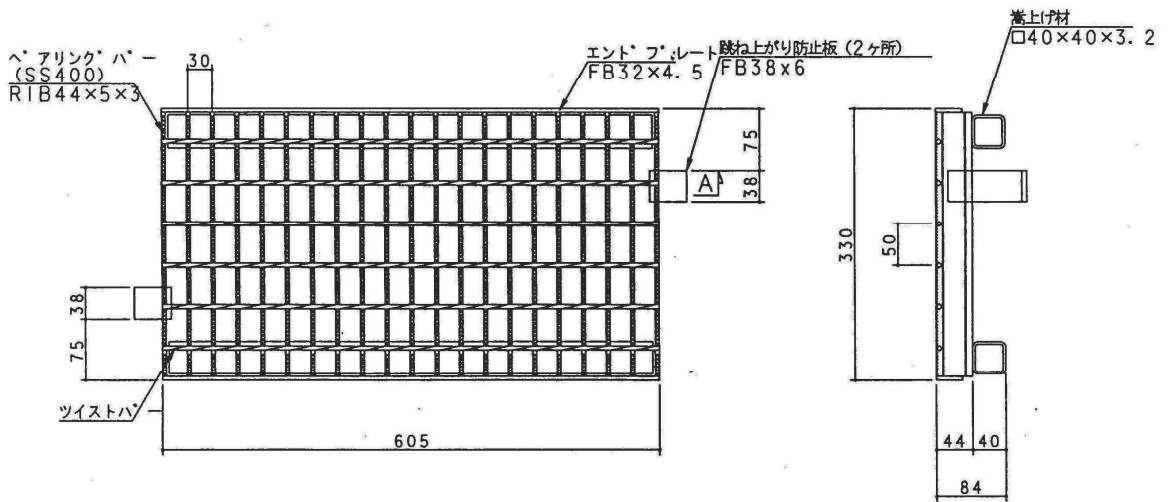
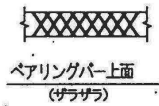
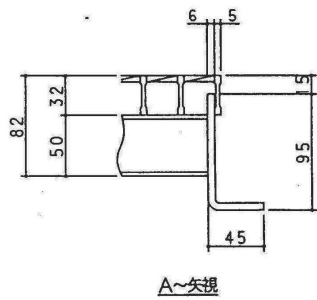
綾瀬市型側溝 240用 T-25  
グレーチング詳細図  
(ガラザラ50・嵩上げ)



**記事**

1. 型式 R5MK32S067型
2. 表面処理 グレーチング：亜鉛メッキ
3. 設計条件 荷重：T-14, 衝撃係数 I=0  
ヘアリングバーに平行

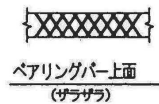
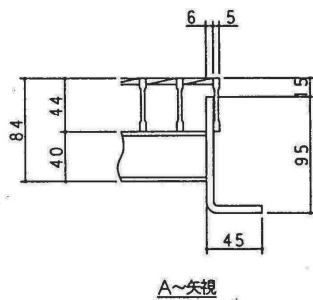
落蓋式側溝 240用 T-14  
グレーチング詳細図  
(ガラガラ50・嵩上げ)

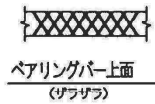
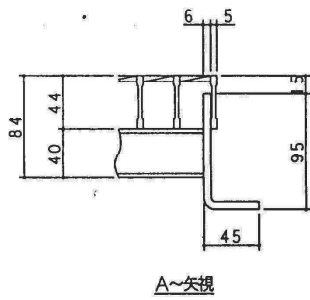
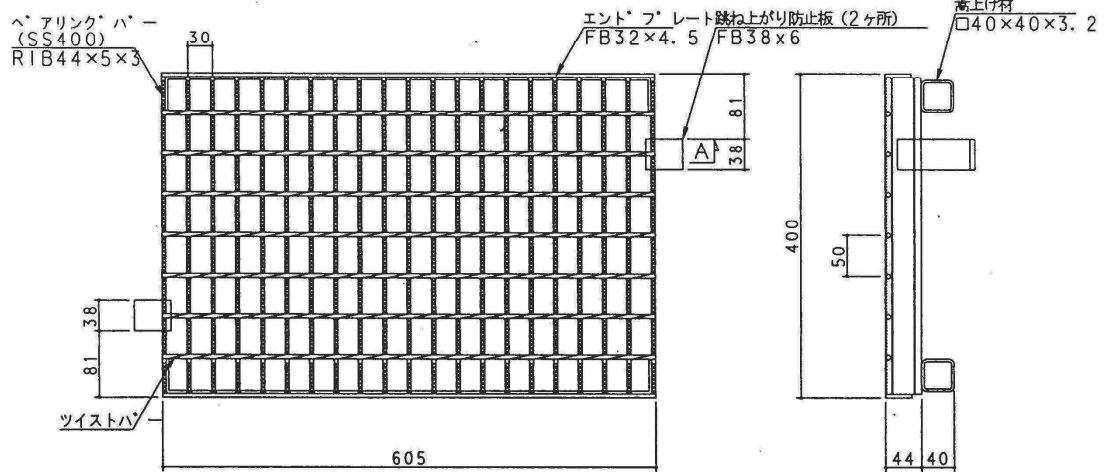


**記事**

1. 型式 R5MK44S084型
2. 表面処理 グレーチング：亜鉛メッキ
3. 設計条件 荷重：T-25, 衝撃係数 I=0  
ヘアリングバーに平行

落蓋式側溝 240用 T-25  
グレーチング詳細図  
(ガラガラ50・嵩上げ)

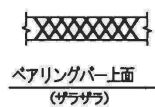
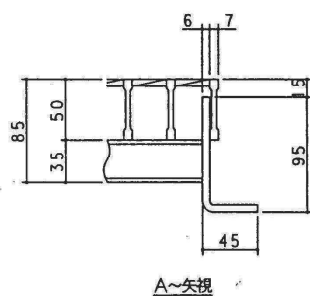
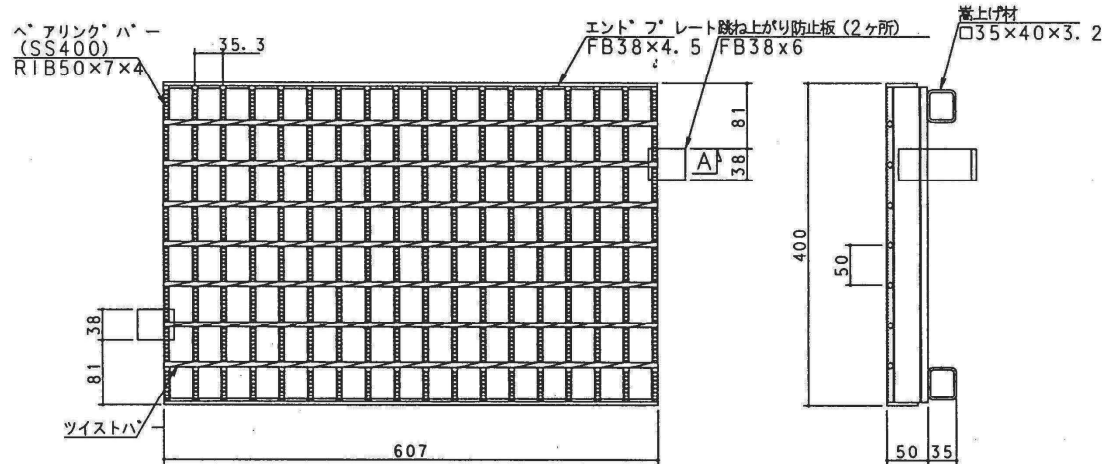




記事

1. 型式 R5MK44S084型
  2. 表面処理 グレーティング: 亜鉛メッキ
  3. 設計条件 荷重: T-14, 衝撃係数 I=0
- ベアリングバーに平行

落蓋式側溝 300用 T-14  
 グレーティング詳細図  
 (ガラガラ50・嵩上げ)



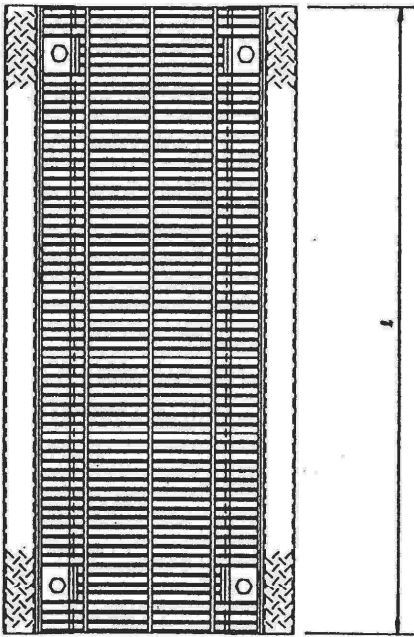
記事

1. 型式 R5MK50S085型
  2. 表面処理 グレーティング: 亜鉛メッキ
  3. 設計条件 荷重: T-25, 衝撃係数 I=0
- ベアリングバーに平行

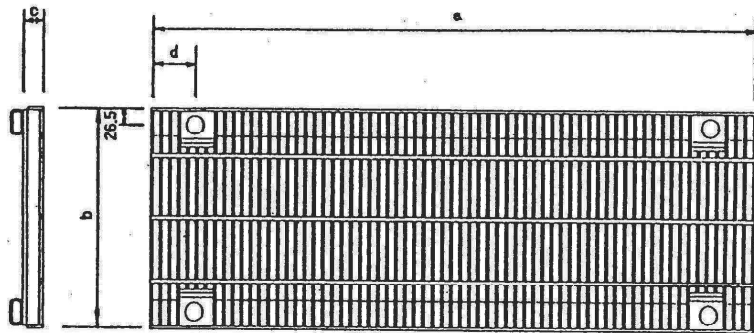
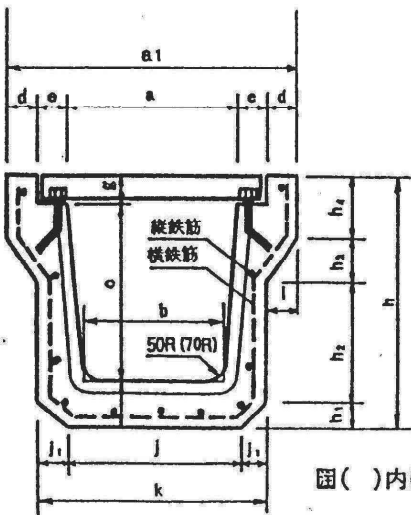
落蓋式側溝 300用 T-25  
 グレーティング詳細図  
 (ガラガラ50・嵩上げ)

《ボルト固定式横断側溝》

呼び名	寸法(mm)																	鉄筋				重量(kg)	
	a	a <sub>1</sub>	b	c	d	e	f	g	h	h <sub>1</sub>	h <sub>2</sub>	h <sub>3</sub>	h <sub>4</sub>	i	j	j <sub>1</sub>	k	l	縦鉄筋		横鉄筋		
																			径(mm)	本数	径(mm)		本数
240	243	450	220	265	45	58.5	70	60	395	40	165	70	120	48	280	40	360	1000	6	10	6	11	185
300	304	520	260	320	55	80	65	465	225		80	55		330	410		11			225			
450	454	696	400	465	68	100	85	650	340		120	150		68	480		560			15		345	



呼び名	グレーチング寸法(mm)				重量(kg)
	a	b	c	d	
240	995	350	32	74	29
300		400	38		36
450		550	50		49

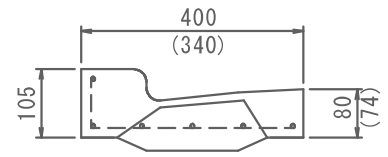
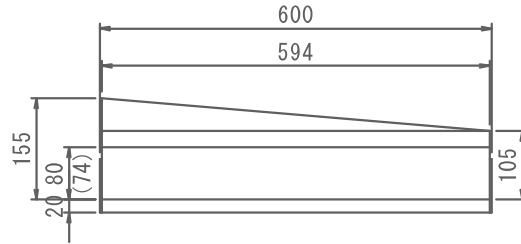
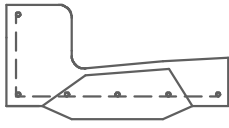


図( )内は 450用です。

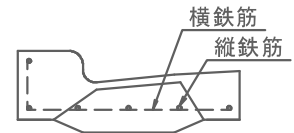
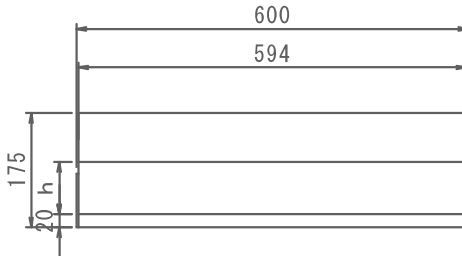
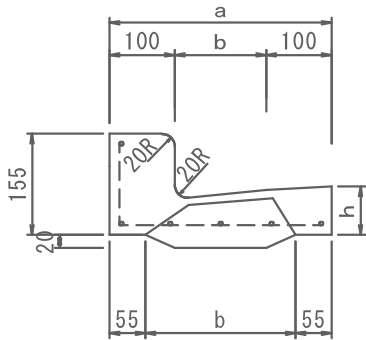
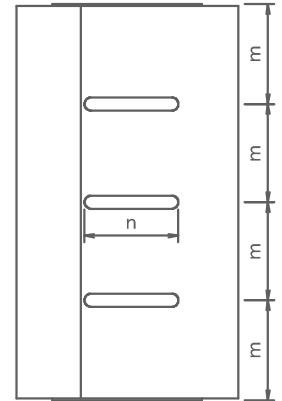
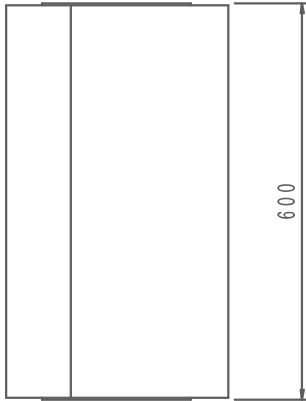
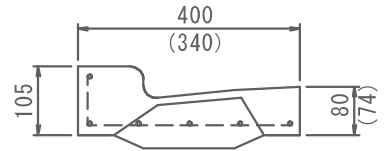
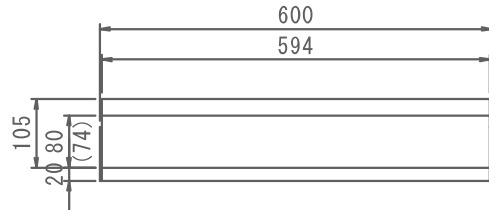
- ※グレーチングは、普通目・滑り防止機能付き・T-25以上を基本とする。
- ※基礎の形状は「落ぶた式U型側溝」と同一断面とし幅は「kの値」とする。

# LU型側溝工

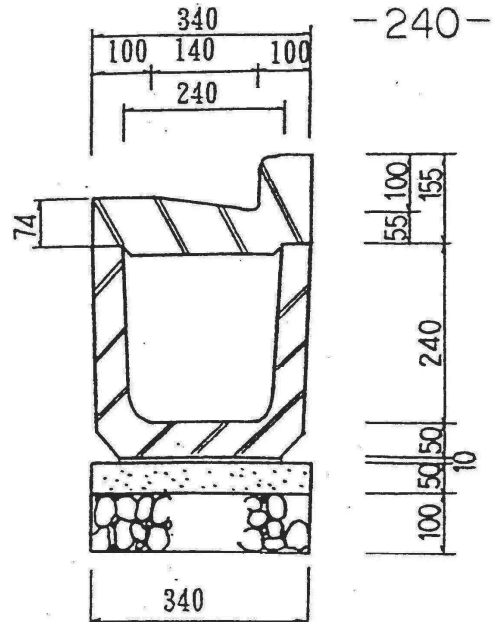
斜め

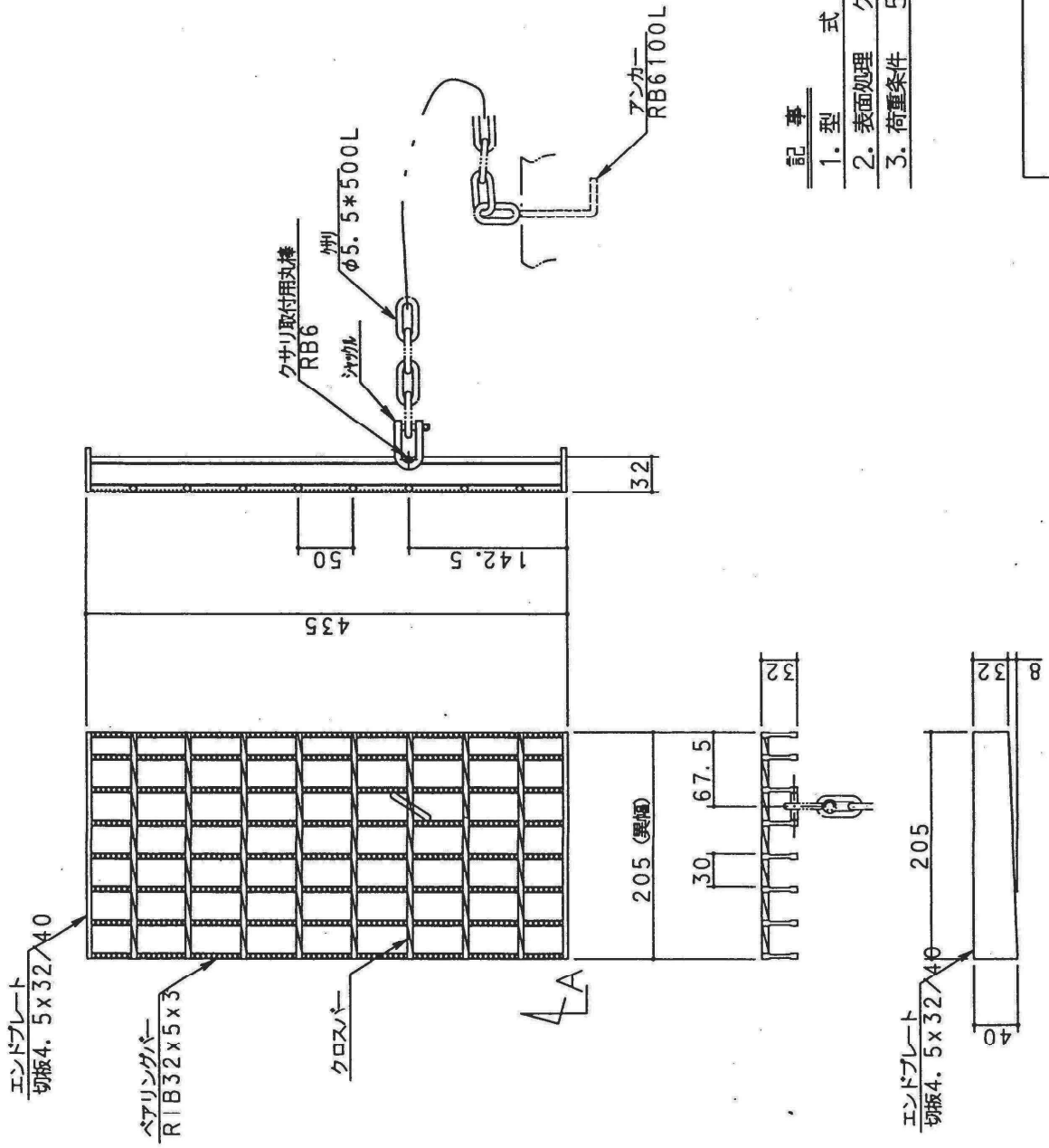


切り下げ



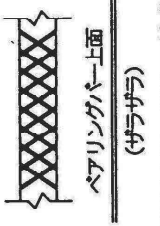
呼び名	寸法(mm)						
	a	b	c	h	k	n	m
240用	340	140	230	74	—	—	—
300用	400	200	290	80	—	—	—
240用 穴あき	340	140	230	74	30	140	150
300用 穴あき	400	200	290	80		200	
寸法の許容差	±2			ねじれ及びそり±3			





- 記 事
- 1. 型 式 R5MO32-特型
  - 2. 表面処理 グレーチング：亜鉛メッキ
  - 3. 荷重条件 5.0kN/m<sup>2</sup>

LU側溝240用  
 グレーチング詳細図  
 (ガラガラ50・クサリ付)



A-A